歴史と史料の会　東京大学本郷キャンパス福武第２会議室

太平洋の集散地

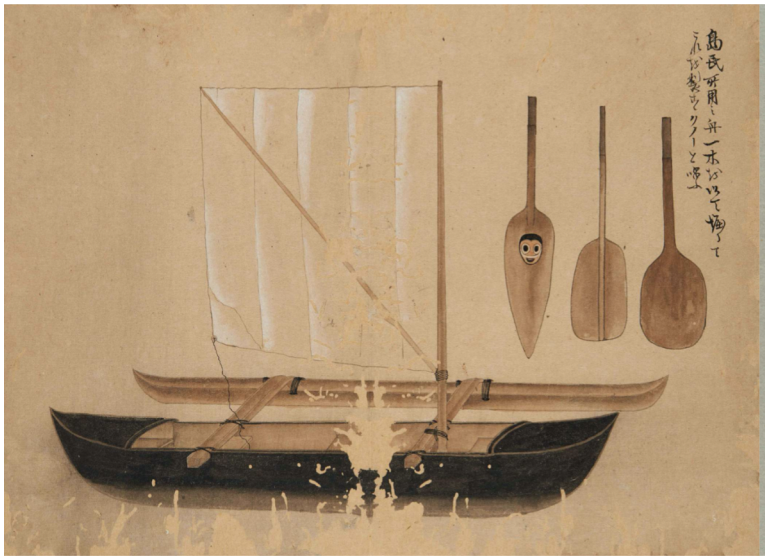
本草学者たちが小笠原諸島で発見した国際社会と国際自然

DEC/16

5:30 PM

太平洋世界のグローバル化につれて、日本列島を取り巻く状況が大きく変わった。西洋の遠洋捕鯨は海域を経済空間に変化させ、黒潮流域の生態系を変貌させた。また、外国人捕鯨者は離島に住み着くことで、徳川幕府の地政政策に影響を及ぼした。

続いて、1862年に小笠原諸島の開拓に乗り出した徳川幕府は洋上の捕鯨ベースを入手し、太平洋の一部を併合した。本発表では、太平洋各地の出身者が触れ合うこの集散地に派遣された本草学者たちが発見した動・植物相について論じ、彼らが築いた新たな自然史を分析していく。



報告者

ヨナス・ルエグ

史料編纂所外国人研究員

スイスのチューリッヒ大学を卒業後、駐日スイス大使館で研修。後にハーバード大学人文科学大学院に入学。現在は東アジア歴史言語学博士課程後期。
博士論文『黒潮フロンティアに於ける国家、企業、そして環境』で、八丈島、鳥島、小笠原諸島など、日本以南の離島の環境史から近代日本帝国の空間的発展を考え直そうとしている。